

五 研究の実際

1 評価規準を具体化した指導計画の改善と工夫をする実践

(1) 物語文における年間指導計画の改善と工夫

本年度は、「身に付けたい基礎・基本」の内容の再吟味及び六年間に指導する内容の系統性の洗い出し、教科書教材で扱った著者の他の作品名を明記する

こととした。(資料1)

(2) 具体的な評価規準を位置付けた単元の指導計画の改善と工夫

単元の指導計画は、「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「言語事項についての知識・理解、技能」の四観点から具体的な評価規準を設け、その中でもその時間の特に大切なものを重点化し、実用化を図って

<p>単元名 (作者名) ※発展図書名</p>	<p>単元の目標</p> <p>◎ 空想的、幻想的な作品を楽しくみながら、いろいろな出来事に合せて揺れ動く主人公の気持ちや、他の登場人物と関連づけて読むことができる。(理解ウオカキ)</p>	<p>身につけさせたい基礎・基本</p> <p>○人物の心情を直接表現し、おもしろくありません・こいしおもしろくなつて・楽しくなつた・びっくりして</p> <p>●表情の描写(きゅつとくちびを)をかみしめてべつかんこして見せました・にっこりしました・た・トントんわ</p> <p>●行動の描写(手を)かき取った</p>	<p>前学年との関連</p> <p>「スイミー」の心情や周りの情景を手がかりに読み取る。</p>
<p>①</p>	<p>○情景描写の巧み</p>	<p>○作品の構造の理解</p> <p>●動きを表すことばの多様性、表現のおもしろさ</p> <p>○「スーホの白い馬」</p>	<p>「スーホの白い馬」</p> <p>だきかかえるはねおきる立ちふさがり話しかけるすりよせる等</p>
<p>※ アジアの昔話・民話「韓国のおむかし話」「朝鮮の民話」上下「りゅうになつたちいさいこい」「はるかな緑の地」</p>	<p>○様子を表す言葉、動きを表す言葉について理解すると同時に、語句に関心をもち、その量を増やすことができる。(言語アイエ)</p>	<p>○「やら〜やら」の表現方法の理解</p>	<p>「スーホの白い馬」</p> <p>だきかかえるはねおきる立ちふさがり話しかけるすりよせる等</p>

(資料1) 物語文における年間指導計画 第3学年

いくこととした。

(3) 学習状況をおさえた児童の実態把握表の作成と事後の変容調査

「単元の基礎・基本」を落ちないよう身に付けさせるべく授業を組織するために、指導前に必ず学習状況の実態をとらえた。また、指導後「基礎・基本」がどの程度身に付いたかを実態把握表によりとらえ、指導の反省をする。とともに次の単元の指導計画に生かすように配慮した。

2 自らが読みのめあてを持って一人読みをし、それをともに深め合う学習過程の工夫

(1) 「物語文学習の手引き」の改善

前年度に作成したものを、場面分けの観点を盛り込む等して児童がより活用しやすいものに改善し、一層物語文の学習の仕方が身に付くよう配慮した。

(2) 相互学習を深めるための「話し合いカード」の作成

昨年度は、意見を深め合う話し合いの仕方が身に付いていないためか、相互学習がなかなか深まらなかった。そこで、本年度は「話し合いカード」を作成した。



自分の考えを動作化

(3) 一人一人に読みのめあてを持たせる工夫を試みる実践

- ① 第二学年「スイミー」
- ② 授業テーマ
児童自らにめあてを持たせて読みの意欲を高める実践(吹き出しを活用して)
- ③ 授業の実際(省略)
- ④ 成果と課題
○ 導入で気持ちを予想して吹き出しに書かせ話し合わせたことは、課題を解決したいという意欲を喚起し、読みへの意欲付けを図るのに効果的であった。